C—10　生徒の勉強べや（場所）の使い方について（第1報）

奈良女大家政　○杉山美智子
北村　　君

1.　本研究は，住居内における子供達の生活領域はどのように確保されているかについて調べたものである。今回は学令期の子供達にとって重要であり，また独立性の望まれる勉強場所の状況に焦点をあてて調査した。

2. 調査対象は，奈良市西部住宅地を主とする地区，国鉄奈良駅を中心とする市街地区，および奈良市東部農業を主とする地区の中学校各１校である。調査日時は昭和41年７月，調査実数は 1,100 名，調査方法はアンケート用紙を配布記入させた。

3. 「住居内であなたの勉強部屋（場所）がきまっていますか」については，「きまっている」が 89% であり，男女の差はほとんどない。地域別にみると，男女とも住宅地，農業地が90%以上であるのにたいし，市街地では80%台とその割合が低くなっている。「その部屋をどのように使っていますか」については，(1) 自分だけが使用する，(2) 兄弟姉妹といっしょに使用する，(3) (2)以外の家族も使用する，(4) その他の４つについて聞いた結果，全体では，(1). 49%，(2). 42%，(3) 8 %，(4). １%であり，半数は自分だけが使用する勉強部屋をもっている。(1)の使用率は男女別にみると男子の方が多く，地域別では住宅地の男子が多い。勉強場所のきまっていない人は，その理由として，自分の勉強場所をほしいと思うが場所がないというのが一番多い。